

## 大学教育ツーリズム in 大館

### 秋田県大館市から学ぶふるさとキャリア教育

原田 梨世（初等英語 4年） 他 学生13名 教員1名

#### 1. 活動概要

通塾率が低いのに関わらず、10年連続全国学力テストで上位を占めている秋田県。中でも世界に開かれた教育都市を目指す秋田県大館市では、「大館ふるさとキャリア教育」と銘打ち、独自の教育理念の下、先進的な教育活動を実践している。

この大館市の教育を視察し、次世代の学校教育の在り方のヒントを求めたのが、この企画の目的である。

#### 2. 実施状況

##### 【0. 事前学習】

##### (1) 上井先生による勉強会

上井靖先生によるレクチャーでは、大館視察に向けて、一人ひとりが目的意識をもって、ツーリズムに参加することを目指した。



その際上井先生にファシリテーターを務めて頂き、種々のアイスブレイクや自主性と主体性の違いについて考えるワークを行った。勉強会の最後には、参加者一人ひとりの大館視察の視点を発表し合った。

##### (2) 佐布里小学校見学

佐布里小学校では、知多市から委託された地域ブランド化推進事業における実践事例を基に、キャリア教育とは、生き方の教育なのだと言った。

以上の、大館渡航までの事前活動の中で出てきたテーマが、「自分の地域に戻ったとき、自分には何ができるか」である。それぞれの個人的な視点、考え方は、そのテーマの下にまとまって、私たちは、大館市の教育の現場へと向かった。

##### 【1. 大館1日目】

##### (1) 大館市の教育説明

大館到着後、少年自然の家にて、市教育長から「大館ふるさとキャリア教育」の概要を聞いた。大館市はかつて優秀な若者の流出と少子高齢化に悩み、「消滅可能性都市」を宣告された。これを受け、地域創生戦略としての「ふるさとキャリア教育」を掲げ、「ふるさとの未来を切り拓く人財」の育成を目指している。



大館市は、公立小中学校におけるふるさとキャリア教育の実践を行っている。各学校において地域との連携を目指した独自の取組を行っており、「百花繚乱作戦」と呼ばれている。そのモデルの一つとして、花岡小学校の「チャレンジフラワーストリートプロジェクト」の説明を、校長から受けた。その中で、児童の主体的な活動をひたすら待つことと、児童に失敗を経験させることが教師にとって大切だと学んだ。

##### 【2. 大館2日目】

##### (1) 扇田小学校 授業マイスター



マイスター認定を受ける武石教諭による小学6年生の算数の授業を視察した。

授業の進行役を務める学習リーダーや、児童間で考えを深め合う「ブラッシュアップタイム」等、児童主体の授業づくりを徹底していた。

この授業見学は、現地の新聞にも大きく取り上げられた。

### (2) 子どもハローワークの概要説明

地域や社会が行う仕事やイベントの手伝い、ボランティア、職場見学や職場体験が自由に何度でも体験できるシステム。企業からの依頼に基づいた募集票が、小中学校内のハローワーク掲示板やHPに張り出され、子ども達は自分の興味の湧いた仕事に体験を申し込む。キャリア教育というと、有名人や大企業の社長の話を聞くというイメージだが、ふるさとを支える人材を育てるために、地域で働く身近な大人の存在を知ること大切である。

### (3) トワイライトコンサート プロジェクションマッピング

扇田小学校にて、トワイライトコンサートに参加した。扇田小の5年生児童によるスコップ三味線の「あまちゃん」の演奏や、地域の方々による合唱等のプログラムを、児童が全て主催していた。コンサート終了後には、扇田小児童が作成したアニメーションを用いて、音楽室校舎にプロジェクションマッピングを披露した。



### (4) ドリマワーク 少年自然の家

二日目の活動の終わりに、ドリムマップ普及協会の方々の監修の下、ドリマワークを行った。これは、20年後の自分をイメージしながら、「住みたい社会」「欲しいもの」「笑顔にしたい人」「行きたいところ、なりたい自分」の4つと、今年のテーマを専用のボードに書き込み、みんなの前で発表するというものである。

### 【3. 大館3日目】

釈迦内小学校と地区まちづくり協議会の合同による「サンフラワープロジェクト」についての説明を、同協議会の方から受けた。このプロジェクトは、児童のひまわりを用いた商品開発(種から搾った油や、それを使ったドレッシング)や、ひまわり畑での写真コンテストの参加を通して、地域との関わりの中でのもの作りについて学んでいこうとするものである。



### 3. 成果

今回、事前学習、大館ふるさとキャリア教育の視察を通じて、これからの学校教育の在り方について考えを深めることができた。参加した学生は、各自問題意識や疑問を持ちかえることができた。また、学んだことをどう愛知に落とし込むのか、どう実践していくべきなのか、より深めるために学内と学外で報告会を行い、愛知教育大学の学生以外にも、教育委員会や様々な教育に関わる方と一緒に考えを深め、学びを共有した。今回学んだことを、どう活かしていくか、またどのように自分事としてとらえる意識を共有していくのかはこれからの課題である。



#### 4. 今後の展望

大館教育ツーリズムを通して、様々な学科の個性的な学生たちが、プロセスを共に過ごし、一つのゴールに向かって頑張った経験によって、主体性に教育をこれから変えていくことができるのではないかと考える。

今後、ガバナンスや留学生等、教育や教師を考えているわけではない人たちにもそれぞれの専門性を生かして参加してほしい。教員を目指す学生には多様な分野の人との関わりを増やし、教育ツーリズムで培ったつながりを大切にして欲しい。

コンフォートゾーンをとびぬける力はリーダーシップに欠かせない力であると考え。今後も様々な思いをもって挑戦したい学生たちが、大館の更に進化した教育から多くを学んでもらえるよう大館教育ツーリズムを続けていきたい。

最後に今回大館ツーリズムを開催するにあたって大館市教育委員会職員の方々をはじめ、高綱先生、佐布里小学校、プログラムを支えてくださった関係者の方々に感謝申し上げます。

#### 5. 決算報告

(予算:400,000円, 残額 60,500円)

費目	支出額(円)
謝金(2名)	50,000
消耗品 (ドリームマップ)	25,500
旅費 (大館6名分) (高速道路代金)	264,000
合計	339,500

#### 6. メンバー

番号	学年	氏名	所属
1	4	原田 梨世	英語
2	3	前田 純樹	教育科学
3	2	中島 夕綺	幼児教育
4		朴 ミナ	留学生
5	3	酒井 彩	教育科学
6	4	石原 満里奈	英語
7	3	上坂 茅穂	情報
8	4	野田 崇貴	英語
9	3	小池 拓実	数学
10	3	加藤 光一郎	社会
11	2	佐藤 真綾	特別支援
12	3	三浦 理沙	教育科学
13	4	伊藤 夏帆	英語
14	2	伊吹 直也	学外学生
15		高綱 睦美	教員